

「切り出した竹を使って」



岡崎女子大学 子ども教育学部
教授 石川博章

1. はじめに

令和2年4月、コロナ禍が始まると同時に、岡崎女子大学子ども教育学部に赴任しました。前任校と同じ分野の学部ではありましたが、慣れない新しい職場でのこと、また、未曾有のコロナ蔓延で、目の前のやらなければいけないことをこなすのに精一杯で、バタバタと時が過ぎ、あれよあれよという間にもうすぐ1年が経とうとしています。

本学があるのは、徳川家康の生まれた愛知県岡崎市で、筆者も毎日、国道1号線を車で運転しながら、横目で岡崎城を見て通勤しています。岡崎市中心部を東西に通る国道1号線の北側には、かつての旧東海道があり、本学はその旧東海道から、さらに北へ150mの小高い丘の上にあります。里山の頂



図版1. 本学にある竹藪

に立地していることになります。近くのバス停から徒歩でその坂を登って通学する学生は、その高低差を嫌がっていますが、海辺育ちの筆者には、車通勤ということもあり、むしろ楽しささえあります。そして、その本学には、まだ少し自然の林が残っていて、その中には竹藪があります（図版1）。なぜこんな話をくどくどとしたかという、初めてこの竹藪を目にした時から、この竹を材料として授業を行ってみたいと思ったからでした。

本学は、保育者養成に加え、小学校教員も輩出しています。筆者は人に教える立場になる者が、教材屋から買って整えられた材料を使って学ぶだけでは、物足りなさを感じています。その材料はもともとどんなものであったのか、その後どのように加工され、整えられて材料となったのか、そこを知り学ぶことは不可欠と考えていました。何年も前ですが、同じ考えから同じ市内の額田の山にヒノキの間伐材を学生と切りに行き（もちろん森林組合の許可をもらいました）、大型遊具を作ったこともありました。その時は、女学生も四苦八苦し、エンジン式のチェーンソーを使いました。この欄でも、何人かの先生方が掘り出した土粘土を使った造形を取り上げていらっしゃいます。筆者はその意味から、今回は竹にしようとしたのです。大都会にある大学では望むべくもないことですが、本学では難しいことはありません。また、現代では、持続可能な開発(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)ということが言われています。遅ればせながら造形分野も参画していかなければならないと思います。そうしたことから竹を材料にした授業を行いましたので紹介いたします。

2. 授業「子どもと表現」

新しく赴任した学校なので、担当する科目も勝手が違い、戸惑うことも多くありました。ましてコロナ禍の中ですから、休校があったり、対面授業が始まったら、またすぐ、分散登校になったり、遠隔授業も組み入れなければならな



図版2. 手作り楽器①(動物カスターネットとマラカス)

ったりで苦労しました。その中で2年生の授業に「子どもと表現」という授業がありました。これは、音楽を専門にされている先生と一緒に担当する授業です。音楽の先生との話し合いの中で、筆者はいくつか手作り楽器（図版2）の制作と、変身グッズ（コスチューム）の制作指導を担当することとしました（図版3）。その後は、音楽の先生の指導のもと、学生がオリジナル曲を制作し、グループごとに発表会をしてみようという授業でした。子どもの楽器は打楽器が中心なので、手作り楽器は廃品で作った打楽器に加え、竹を使ったバンブーダンスの楽器制作を取り入れました。



図版3. 変身グッズをまとめてポーズする学生

女性ばかりですから、手入れされていない藪から大きな竹を切り出すのは困難で、やはり男性職員にも手伝ってもらうことになりました。その後の制作は学生に全てやってもらいました。竹を加工する道具は、いくつか特殊なものがあります（図版4）。学生が初めて見て驚いたのは、竹割器です。形も独特ですが、割れ方もダイナミックで割れた時には歓声すら上がります。また、ナタは両刃の竹用のナタで、竹を細かく裂いていくのに使います。かなり細くなるまで裂いていくことが可能で、裂いていくだけでも面白さがあります。いずれも竹という素材のまっすぐ通った繊維という特徴から可能となる加工です。のこぎりだけは、繊維を切断することに使います。これは竹用のものもあるのですが、今回は木材用の両刃のこぎりを使いました。加工



図版4. 竹を加工する道具（上からのこぎり、竹割器、両刃竹割ナタ）

方法を知った後に、グループごとに作ってもらいました。ただ、バンブーダンス用の楽器は、さほど細かい細工を必要としません。裂くこともほとんどありませんので、学生たちも比較的容易に制作できたと思います。作った後は、学生たちはすぐに、自分たちでリズムを刻みながら試しに踊っていました（図版5）。

3. おわりに

コロナ禍の関係から、ステージを使った発表まではできませんでしたが、材料から整える大変さと、物を作って使う楽しさは実感できたようでした。まずは成功というところでしょうか。ややもするとスケール感が欠ける造形活動が、多くなりがちですが、こうした大きな材料を切り出すところから取り組む活動も、学生と一緒に十分に取り組んでいきたいと思っています。



図版5. バンブーダンスをする学生